

令和2年度 南あわじ市の防災教育（概略）

【目標】

- 自らの命は自らで守る力を身に付ける従来の安全教育に加え、人としての生き方・あり方を考える防災教育を推進する。
- 児童生徒自らが、将来的にわたって主体的に南あわじ市の防災に関わり、安心・安全なまちづくりに貢献しようとする意識を高める。

(1) 防災ジュニアリーダー養成事業 4つの柱

◎平成29年度からの新規事業として市の防災教育の核として取り組んでいる。

①防災パートナーシップ協定の継続。

*防災ジュニアリーダーや生徒会役員が参加
R2.12.26開催



②7月「防災ジュニアリーダー養成合宿」

への各中学校代表の参加
(令和元年度は21名参加)



③8月「東北ボランティア派遣」 (令和元年度～小学6年生が参加計19名)



○東北ボランティア派遣は、淡路三原高校と協働して参加する。※

④舞子高校防災出前授業

※平成29年5月舞子高校と南あわじ市で「協定」を締結



学期に1回2校ずつ、計6校で実施予定。

- ・平成29年度6校・平成30年度6校
- ・令和元年度5校・令和2年度1校

※東北ボランティア派遣

- ・平成29年と30年は、市内中学生代表と淡路三原高校の人形浄瑠璃部や放送部、生徒会が参加した。令和元年度は小学生が初参加。また淡路三原高校人形浄瑠璃部に替わり和太鼓部が参加。
- ・同行する放送部が撮影した映像をDVDにまとめてもらい、市内全校に配布して防災教育の教材としている。

※淡路三原高校と南あわじ市は、平成30年5月に「協定」を結んでいる。

- (2) 各中学校において、ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティアの報告会
○自校の文化祭または校区の小学校への
伝達・報告会（紙芝居等）
市の防災イベント等での発表、

(写真は、「津波防災フォーラム2018」での発表の様子)



(3) 自然学校「防災学習」

- 市内の小学5年生が、自然学校において、震災・学校支援チーム(EARTH)員や市役所危機管理課職員等を招き、避難所体験活動や校区の防災マップ作り、災害食作り等、工夫した防災学習を一層推進する。
阪神淡路大震災の25年事業として、令和元年度実施の「挑戦!NHK防災サバイバル」のプログラムの活用

(4) R3年度、全教員による1人1防災授業(時間等の長さは問わない)

- 指導略案等を作成することで、学校教育活動全般に防災的視点を積極的に入れていく。
- ☆福良小先導的実践研究(H29～R1)を活用
◎研究テーマ：地域と連携し、主体的に行動する児童を育成する防災カリキュラムの作成
○避難訓練、公開授業等、学校の研究成果を発表し、市内全体の取組に広げる。

(5) 教育長防災出前講座(平成29年度より)

- 3年に1回を目途に、各校で計画する。
(写真は辰美小5・6年生への授業)
- *児童・生徒・教職員対象に講話。
・令和元年度3校(松帆小、南淡中、阿万小)
・令和2年度10校
(広田中、三原中、広田小、湊小、西淡中、榎列小、神代小、八木小、倭文小、福良小)



(6) 市総合防災訓練(R2.11.15)への児童生徒の主体的参加

- 学校からの通知により、保護者・家族等とそろって参加するように促す。
地域との連携も図る。
- 率先避難者に児童生徒がなれるよう、実践力向上を図る。

(7) 各校の取組

- ①防災マニュアル、防災教育計画、防災訓練の見直しを行う。
- ②小学校5年生の自然学校のプログラムに「防災学習」を取り入れる。

(8) その他

- ①拠点避難所部会の開催
- ②震災・学校支援チーム(EARTH)の派遣、研修
- ③南三陸町の復興支援(平成29年度より)
*南三陸町特産のサケや野菜を給食の食材として、3.11前後に提供。
R1年度1.17
R2年度3.11